

1-2 ごみの減量にむけて

ごみの減量化や資源化は、私たちが日々生活をしていくうえで、避けて通ることのできない取り組みのひとつです。今日ではごみの適正処理やリサイクルにとどまらず、ごみの発生そのものを少なくすることの重要性が社会的に認識されています。

「環境の時代」と言われる今こそ、限りある地球資源を守り、恵み豊かな環境を次世代へ引き継ぐため、これまでの大量生産・大量消費・大量廃棄という従来の社会経済システムを見直し、新たな社会経済システムによる持続可能な社会の実現をめざして行動することが求められています。そのためには、3Rを通じた資源循環をめざす「循環型社会」に加え、「低炭素社会」や、「自然共生社会」を統合した取り組みが必要です。

ごみダイエットプラン「江戸川区一般廃棄物処理基本計画」

区では区民や事業者と協働して、「ごみ減量 20%」という目標に向かって更なる取り組みを進めるため、平成 28 年 3 月に江戸川区一般廃棄物処理基本計画「Edogawa ごみダイエットプラン」第3期計画を取りまとめました。

【将来像】

日々の暮らしの中で物を大切に作る豊かな心が広がり、みんなが喜んで「3つのR」に取り組む、循環型都市・江戸川区

共育・協働を基本に3つの考え方に沿って、区民・事業者・区が主体となり、地域特性を生かした取り組みを実践していくことで将来像を実現します。

- (1) 「共に学び行動につなげる」
 - ①環境学習・意識啓発の促進
 - ②区民・事業者・区による協働体制づくり
- (2) 「生産から消費に至るプロセスで3Rを実践」
 - ①リデュース・リユースの推進
 - ②リサイクルの推進
- (3) 「適切な責任と役割分担」
 - ①環境負荷の少ない適正なごみ処理の推進
 - ②ごみ処理コスト縮減と処理経費負担の適正化

循環型都市・江戸川区を目指して

共育・協働を基本に3つの考え方に沿って、地域特性を生かした取り組みを実践していくことで将来像を実現します。

(1) 共に学び行動につなげる

ごみ減量の取り組みには、埋立処分場の延命化やごみ焼却による温室効果ガスの排出など、ごみ処理における問題や現状を理解することが大切です。しかしこれだけでは成果となって現れません。一人ひとりが日々の暮らしの中でごみ減量の大切さを学び、実践し、交流することで、次の行動につながります。そして、それらの輪の広がりが更なるアイデアや行動となってごみ減量の取り組みの成果を確実なものとすることができます。

そこで、ごみ問題解決のために区民、事業者、区が共に学び、行動する、“学ぶ（学習）⇒実践⇒交流⇒次の行動へ”というプロセスを組み込んだシステムの構築、プログラムの展開を図るとともに、ごみ問題の原因・影響などに対する正しい評価情報や対応策、さらには実施効果などについて多くの区民に理解してもらい、ごみの発生抑制・減量につなげていきます。

(2) 生産から消費に至るプロセスで3Rを実践

これまでの大量生産・大量消費・大量廃棄というごみを大量に発生させてしまう社会経済システムを改め、環境に負荷の少ない循環型都市をめざすために、積極的にリデュース・リユース・リサイクル（3R）の取り組みを行っていきます。

国の第三次環境型社会形成推進基本計画では、廃棄物の発生量そのものを抑えることを優先課題とし、リデュース（発生抑制）とリユース（再利用）の2Rを推進することをうたっています。従来の“発生したごみを分別し、いかにリサイクルしていくか”ということから、生産、流通、販売、消費の流れの中で、上流側の対策を重視し、“ごみを発生させない”ためのリデュース、繰り返し利用するなどの方法で長寿命化を図るリユースに比重を移し、それでもなお残るものは資源として回収しリサイクル（再利用）することとします。リサイクルに適さず、最後にごみとなったものは、安全・確実かつ環境負荷の少ない適正な処理・処分を進めるものとします。

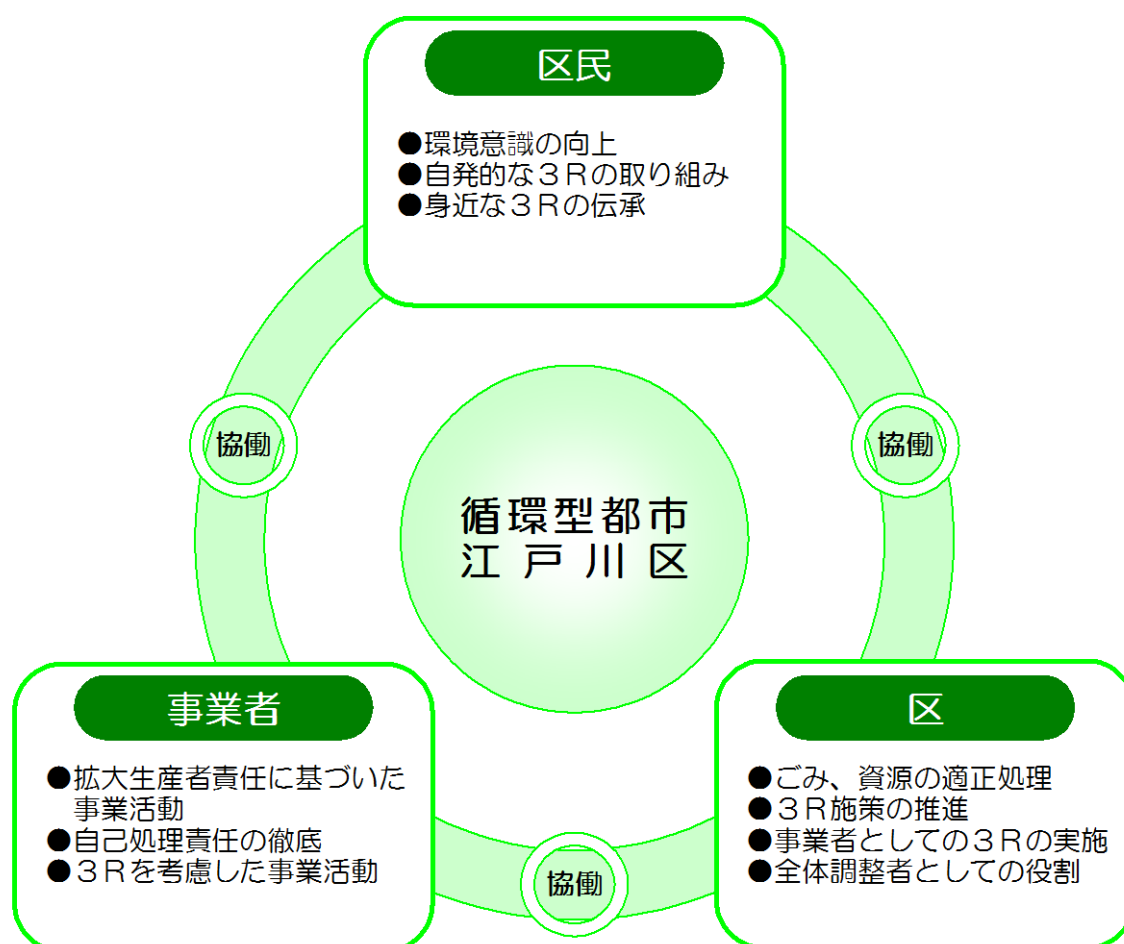
また3Rを進めると同時に、地球温暖化防止のための低炭素社会の実現や、生物多様性に配慮した自然共生社会の構築にも十分に配慮し、循環型社会、低炭素社会、自然共生社会を統合した持続可能な社会をめざします。

(3) 適切な責任と役割分担

区民・事業者・区がそれぞれの果たすべき役割と責任を明確にして行動することで循環型都市を構築していきます。

区民は3Rを心がけるとともにルールに沿った分別排出を、また事業者は拡大生産者責任*1に基づいた事業活動、自己処理責任の原則に基づいた処理を行います。そして区は、廃棄物処理法に基づきながら環境負荷の少ない適正処理を行うとともに、区民・事業者の主体的な行動を支援します。

区民・事業者・区の役割分担



* 1 : 【拡大生産者責任】生産者が、その生産した製品が使用され廃棄された後においても、当該製品の適正なりサイクルや処分について物理的又は財政的に一定の責任があるという考え方です。具体的には製品設計の工夫、製品の材料・成分表示、一定製品について廃棄等の後に生産者が回収やリサイクル実施することなどが含まれています。

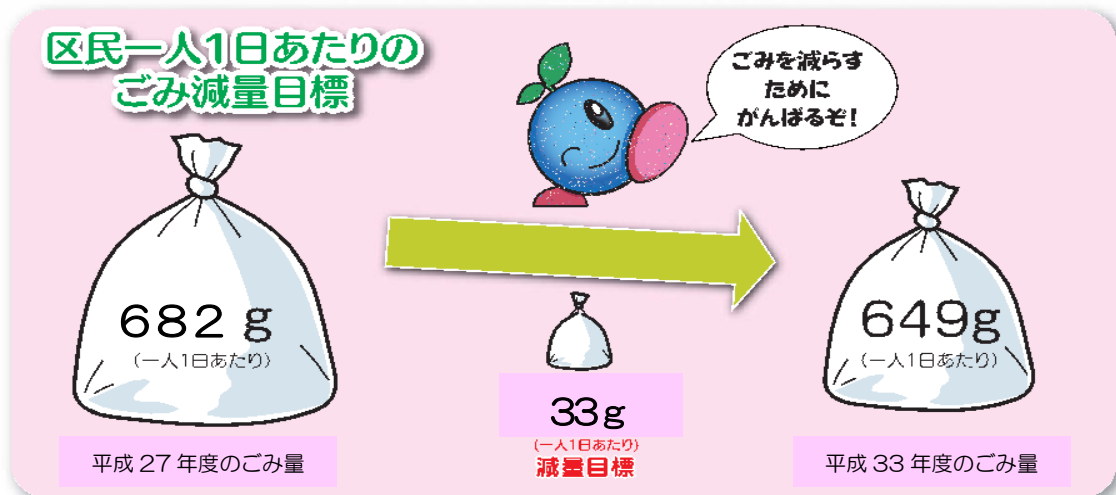
減量目標（1人1日33g）

ごみの減量20%を達成するためには、区民一人ひとりの実践が必要です。

例えば、毎日一人33gの「ごみ」を減らすことにより、区内で年間約8,258tとなり、ごみ収集車約5,656台分に相当するごみが減ることになります。

ごみ収集車は環境に配慮した低公害車を使用していますが、収集に使用する台数を減らすことができればCO₂の排出も減少します。さらに、ごみ焼却処分によるCO₂の排出も抑制することができます。

まずは、一人1日33gを減量目標として、身近なところからごみを出さない工夫をしていきましょう。



区民一人ひとりができる行動

(1) 買い物のときにできること

- ①マイバッグを利用してレジ袋を断ると1枚あたり約10g減量
- ②紙製の手さげ袋を断ると1枚あたり約50g減量
- ③量り売り商品を購入し、トレーを使用しないと1個あたり約20~60g減量

(2) 生活のなかでできること

- ①ギュッとひと絞りで生ごみの約10%の水分を減量
- ②食品は買いすぎず、作りすぎず、残さない。おにぎり1個あたりの残飯を出さないことで約100g減量
- ③洗剤など詰め替えができるものを使用することで、空ボトル1本あたり約60g減量

(3) ごみと資源を分別することでできること

- ①新聞紙朝夕刊 1日分で約250g 減量
- ②1リットルのジュースの紙パック容器で約30g 減量
- ③500ミリリットルのペットボトル容器で約20g 減量

★ ごみを減らすためには区民一人ひとりが3R★

1 まず リデュース ● 減量 ●	2 つぎに リユース ● 再利用 ●	3 最後に リサイクル ● 再資源化 ●
<p>マイバッグ を持参 約10g 減量</p>	<p>Tシャツを リユース 約150g 減量</p>	<p>朝夕刊 一日分の新聞 約250g 減量</p>
<p>手提げの 紙袋を断る 約50g 減量</p>	<p>詰替の洗剤 の使用 約60g 減量</p>	<p>ジュースの 紙パック(1ℓ) 約30g 減量</p>

ごみが減ると・・・

**埋立量が減って
埋立処分場が長持ちする**

日々の暮らしの中で物を大切に
する豊かな心が広がり、みんなが喜んで
「3つのR」に取り組む、
循環型都市・江戸川区

暮らしやすい
江戸川区に
なっていくね!

ごみ処理量が減って
温室効果ガスが少なくなる

ごみ処理に使うお金が減って、
税金を他のことに使える